ISSN 1341-6928

串本海中公園 マリンパビリオン

2000. 3 Vol. 29, No. 3



フクロノリ

Colpomenia sinuosa **(Derbès et Solier)**

名前の通り袋状の体を持ち、内部は中空、多数が寄り集まってしばしば大きな群落となる。成長が早く、錆浦では1月から3月頃にかけて、地先の浅い岩礁の上や潮間帯の転石の上などに一面に生育し、春一番が吹く頃に波ではがれて海岸に打ち上げられる。海中を漂う破片がこの頃しばしば水族館の取水ポンプを詰まらせる事があり、宿直者にとっては厄介者である。体の質はごわごわするが、薄くて壊れやすく、指で押すと容易に穴が開く。体は普通直径5㎝から10㎝程度であるが、条件が良ければさらに大きくなる。食用にはならない。

写真は干潮時に錆浦地先の潮間帯で撮影したもの。褐藻綱カヤモノリ目カヤモノリ科。

S.U.

串本海中公園センター

海中展望塔に集まる魚 (23)　　1999年1月～12月

福田 照雄

本年（1999年）は112日の観察で137種が記録された。前年（1998年）の155種に比べると大きく減少しているが、それでも1995年の143種に次いで3番目の記録である。前年は黒潮の接岸と暖冬（最低水温16.0℃）により本来冬季に姿を消す熱帯性の魚類が多数越冬したため、一年を通して多種の魚類が出現した異例な年であった。本年も黒潮接岸傾向と暖冬であったが、1月と3月に14.7℃の最低水温が記録されており（本誌Vol.29,No.1参照）、熱帯性魚類の越冬に影響を与えたものと思われる。

年間の出現状況をみると1 、2月は前年の多種出現傾向が引き継がれ多くの魚種が観察されたが3、4月は減少、5月にやや増加し6、7月は横ばい、8月に大きく増加し9月に最多の86種が観察され、その後次第に減少し12月に75種となった。これは例年に近い季節変化といえる。

本年は137種が観察されたが、このうち112種は前年との共通種で、前年見られず本年見られたのは25種であった。このうち塔での初記録種はシロブチハタ？、キビレニセスズメ？、ヒメスズメダイ、フタスジリュウキュウスズメダイ、ヘビギンポ、ヒメテングハギ、ハナビラウオ？メアジの8種であった。ヒメスズメダイは、9月に、フタスジリュウキュウスズメダイは8月に塔南面のサンゴ密集地に定住して以来、2000年2月13日現在まで生息が確認されている。また、前年出現し今年観察できなかった種は43種であったが、このうちセジロノドグロベラ以外はいずれも出現率20%以下の種であった。

出現率80%以上の種は19種で前年の24種に比べ大きく減少している。減少した種はカゴカキダイ、イシガキスズメダイ、セナスジベラ、コガシラベラ、オトメベラ、カミナリベラ、キタマクラの7種で、増加した種はタカノハダイ、ブチススキベラの2種であった。なかでも定住性の強いイシガキスズメダイの増減は本海域で越冬できる水温条件（最低水温16.0℃で越冬、14.7℃では死亡）が判り興味深い。

この他、トラウツボ、クロホシイシモチ、タカベ、チョウチョウウオ類が前年に比べ大きく減少した。

また本年はシマアジが観察できなかったが、これは1978年の観察開始以来初めてのことであった。観察開始時は黒潮が離岸、近年は接岸といった串本周辺海域の大きな海況変動が塔周辺の魚類群集の変化となって現れたことの象徴的な現象の一つといえる。

和　名	月 JFMAMJJASOND	日数
トラウツボ	-1--1---------	2
ワカウツボ	111111-11211	28
ウツボ	111111----1-	16
ゴイシウミヘビ	--------11-1	3
キビナゴ	212211222234	31
ゴンズイ	1212-1-212-1	12
アカエソ	----11111121	22
ボラ	211121222331	49
トウゴロウイワシ類	--2231255555	57
ムギイワシ	33-21-2-3245	42
オキザヨリ	1-------1---	6
ヘラヤガラ	----1-211111	15
アオヤガラ	121---------1	8
カサゴ	111111111111	35
ハナミノカサゴ	---11-----21	11
キリンミノ	----------1	2
ヒラスズキ	--1----1----	2
スジアラ	--------1---	2
シロブチハタ？*	-1----------	1

和　名	月 JFMAMJJASOND	日数
キビレニセスズメ？*	-----1------	2
クロホシイシモチ	---23332---2	44
オオスジイシモチ	11111-----11	11
ギンガメアジ	11----------	3
メアジ*	----------32	8
フエダイ	11-112122222	52
バラフエダイ	22--------11	20
ヒメフエダイ	--------2211	16
クロホシフエダイ	-1----------	1
クロサギ	---11111121-	25
ヒレグロコショウダイ	----------1	1
クロダイ	-----1-------	1
ハマフエフキ	--------21--	6
イトフエフキ	---------1----	4
フタスジタマガシラ	---------2222	34
アカヒメジ	------1-------	3
オキナヒメジ	22222-121222	65
オジサン	11------12222	37
トゲチョウチョウウオ	1-1222222222	71

和　名	月 JFMAMJJASOND	日数
チョウチョウウオ	222333344432	106
ゴマチョウチョウウオ	------1-----	2
ミゾレチョウチョウウオ	--------1222	32
アケボノチョウチョウウオ	--------1----	2
スミツキトノサマダイ	----------1	4
トノサマダイ	------11121-	11
ヤリカタギ	--------11--	2
フウライチョウチョウウオ	-------12222	39
サザナミヤッコ	-----111111--	11
ナメラヤッコ	------11-1----	4
メジナ	555555555555	112
クロメジナ	555554555555	111
オキナメジナ	22221122221-	58
イスズミ	444433324333	109
テンジクイサキ	333332333332	111
タカベ	221211211----	34
カゴカキダイ	-----2233222-	50
イシガキダイ	-----11--1----	6
ホシゴンベ	-------111--	5
タカノハダイ	222222222222	95
ミギマキ	--1222222222	70
クマノミ	222223222222	110
アマミスズメダイ	----1-11--111	10
ヒメスズメダイ＊	--------2212	36
フタスジリュウキュウスズメ＊	--------12222	38
ハクセンスズメダイ	--------1122	22
イワサキスズメダイ	-1----------	1
イシガキスズメダイ	1--------1233	34
シマスズメダイ	221----11222-	32
オヤビッチャ	122323233433	96
ロクセンスズメダイ	11-1--2--11-	10
テンジクスズメダイ	1---11-------	10
メガネスズメダイ	--------1222	29
ソラスズメダイ	333455545555	110
セダカスズメダイ	323233323233	112
スズメダイ科 sp.	-------11-1--	4
コブダイ	---1-11------	4
ブチススキベラ	222222222222	93
カマスベラ	----------1-	1
クギベラ	1-1----1--12	13
セナスジベラ	1------11122	26
ヤンセンニシキベラ	------1-----	2
ニシキベラ	233333222223	111
コガシラベラ	112211212222	59
ヤマブキベラ	222323232223	111
オトメベラ	121111-11222	48
ササノハベラ	323332222223	111
ホンソメワケベラ	222222322222	107
カミナリベラ	222221-12333	81
アカオビベラ	--------111-	6
トカラベラ	1--------1111	7
イナズマベラ	---1--1-1--12	13
カンムリベラ	-1--1---1-1-	5

和　名	月 JFMAMJJASOND	日数
ツユベラ	----------1---	5
ナメラベラ（シロタスキベラ）	1------1211-	15
ブダイ	333322222232	109
アオブダイ	1111-1122112	39
ヒブダイ	----2111221-	19
ナガブダイ	22111-------	24
ニシキブダイ	1--------211	12
ブダイ科 sp.	-----1-11122-	17
ワヌケトラギス	1-------1----	2
ヘビギンポ＊	-1----------	1
ヘビギンポ科 sp.	1--111----1-	9
テンクロスジギンポ	---111112222	48
ミナミギンポ	----------11	3
ミノカエルウオ	11-1------1-	13
クロユリハゼ	------2-11----	6
クツワハゼ？	1-1------1-11	9
アイゴ	222222122222	81
ツノダシ	111222122111	49
シマハギ	-------11----	6
スジクロハギ	--1111-1----	15
ナガニザ	22---1222222	65
ニセカンランハギ	222222222222	105
クロハギ属 sp.	1--------1---	3
サザナミハギ	1------1----	4
ニザダイ	222322222222	108
ヒメテングハギ＊	--------1--1	2
テングハギ	1---1222211-	32
ミヤコテングハギ	1----------	1
テングハギ属 sp.	-----1-1----	3
カマス科 sp.	------21----	2
ハナビラウオ？＊	----------1	1
ツマジロモンガラ	----------1---	1
カワハギ	121111112111	43
ソウシハギ	11----------	3
アミメウマヅラハギ	-------1-1---	2
メガネウマヅラハギ	----11--111-	5
ハコフグ	222222222222	102
ミナミハコフグ	------1111---	11
ウミスズメ	111111111211	36
シマウミスズメ	212221-11222	64
ハナキンチャクフグ	-1-------1-1	4
キタマクラ	212122221112	61
クサフグ	11111-------	11
トラフグ属 sp.	1----1------	2
イシガキフグ	112222232222	77
ハリセンボン	1112111221---	39

＊は塔での初記録種

表中の数字は月の出現度

（１：少ない。２，３：普通。４，５：多い。）

月	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D	計
観察日数	9	10	10	10	10	9	6	10	10	8	10	10	112
種数	71	61	54	58	66	65	61	75	86	84	83	75	137

牛の島のウミウシ展

八重山海中公園研究所
近藤 鉄也

私の勤務する八重山海中公園研究所は、石垣島から高速船で25分、外周わずか12.6kmの平らな島「黒島」にある。島の主な産業は牧畜で、島民200名に対して、牛の数はなんと2500頭余りになる。

島の青年たちは毎日牛の世話に追われているが、何とかもっと黒島をメジャーにしようと、毎年2月の日曜日に1日だけではあるが「黒島牛まつり」を開催している。牛１頭が当たる抽選会や牧草転がし、特産品の直売など様々なイベントを催し、その甲斐あってか牛まつり当日には2000人を超える来訪者があり、島は普段ありえない人盛りでごった返す。

この牛まつりに合わせて当研究所でも毎年様々な特別展を行っており、今年は牛の島にちなんで、黒島・小浜島・新城島周辺海域に生息するウミウシ類の展示を行った。

ウミウシ類とは、軟体動物門腹足綱後鰓亜綱全般を示す。早い話が巻き貝のグループで、実際、アメフラシは体内に痕跡的な貝殻を持つ。ところが、後鰓亜綱の中の裸鰓類（ドーリス目）の成体は、完全に貝殻が消失している。裸鰓類は狭義のウミウシと呼ばれ、他の後鰓類と区別されることもある。ウミウシの名の由来は触角の形が牛の角を想像させるためである。ところが英名はsea slug（海のナメクジ）と情けない。

展示方法は本誌Vol. 14, p10、Vol. 26, pp10-11と同様、ブランデーグラスとワイングラスを用いた止水飼育とした。牛まつり直前に採集した個体17種と、水中で撮影したウミウシ類の写真44種を展示し、若干の解説を行った。

見学者の反応はというと、色彩豊かな種を大伸ばし写真で紹介したためか、多くが「きれい」とか「派手」という好印象を得てくれたように思えた。ただし実物を見て、「気持ち悪い」、「変な生き物」という英名にふさわしい意見も聞かれた。意外だったのは島の住人の反応で、ウミウシを初めて見る人が多かったことである。きれいな海にあこがれて毎年多くの人々が県外からやってくるが、実際八重山に住んでいる人たちは、子供の頃に少し泳いだりするくらいで、大人になってスノーケリングをしたり、ましてやスキューバダインビングをする人はほとんどいないからである。

さて、昨年6月から9ヶ月間に採集できたウミウシ類は実に77種（内未同定種12種；下表）になった。これからどんな種に出会うことが出来るか、今から楽しみである。

最後に、採集にご協力くださった黒島マリンビレッジの池田章光氏と黒島ダイビングパークのスタッフの皆様に厚くお礼申し上げます。

表．採集したウミウシ類（●は展示種）

		学名	標準和名（カッコ内は仮名）
頭楯目	ミスガイ科	*Micromelo undata*	コンシボリガイ
	カノコキセワタ科	*Chelidonura amoena*	（アモエナ）
		C. hirundinla	ニシキツバメガイ
		C. palida	（パリーダ）
		C. sp.	ニシキツバメガイ属の一種
		Philinopsis gardineri	（ガーディナーイ）
		属不明	カノコキセワタ科の一種
	ウミコチョウ科	*Sagaminopteron ornatum*	ムラサキウミコチョウ
	科不明		頭楯目の一種
アメフラシ目	アメフラシ科	*Dolabella auricularia*	タツナミガイ
背楯目	カメノコフシエラガイ科	*Berthella martensi*	チギレフシエラガイ
嚢舌目	カンランウミウシ科	*Cyerce kikutarobabai*	カノコウロコウミウシ
	ゴクラクミドリガイ科	*Elysia carlsoni*	（カールソニ）
		E. hoffae	（ホッファエ）
		E. livida	チゴミドリガイ
		E. vatae	（ヴァタエ）
		E. splendens	ハナミドリガイ
		E. sp.	ゴクラクミドリガイ属の一種

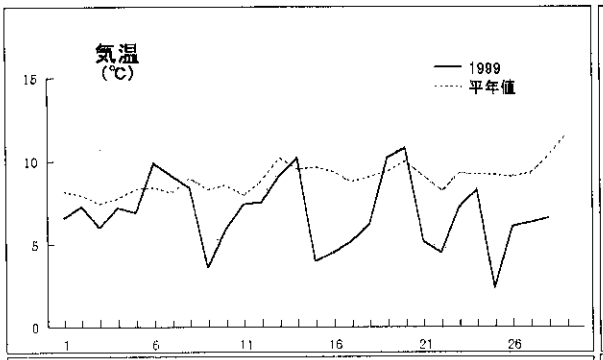
	チドリミドリガイ科		*Placobranchus ocellatus*	チドリミドリガイ
ドーリス目	ミカドウミウシ科		*Hexabranchus sanguineus*	ミカドウミウシ
	ネコジタウミウシ科		*Hopkinsiella sp.*	ヒロウミウシ属の一種
	キヌハダウミウシ科	●	*Gymnodoris rubropapulosa*	ルブロパプローサ
			G. sp.	キヌハダウミウシ属の一種
			Nembrotha cristata	トサカリュウグウウミウシ
			N. kubaryana	(クバリャーナ)
			N. lineolata	クロスジリュウグウウミウシ
			Roboastra gracilis	リュウグウウミウシ
		●	*R. luteolineata*	イシガキリュウグウウミウシ
			Tambja kushimotoensis	ミドリリュウグウウミウシ
	イロウミウシ科		*Ardeadoris egretta*	(エグレッタ)
			Cadlinella ornatissima	イガグリウミウシ
			Chromodoris annae	(アンナエ)
		●	*C. colemani*	(コレマニ)
			C. dianae	(ダイアナエ)
		●	*C. elizabethina*	(エリザベティーナ)
			C. geometrica	キカモヨウウミウシ
			C. leopardus	(レオパルダス)
		●	*C. magnifica*	(マグニフィカ)
			C. reticulata	(レティクラータ)
			C. strigata	(ストリガータ)
		●	*C. willani*	(ウィラニ)
			C. sp.	シロウミウシ属の一種
		●	*Glossodoris atromarginata*	キイロウミウシ
			G. hikuerensis	(ヒクエレンシス)
			G. rufomarginata	(ルフォマルギナータ)
			Hypselodoris infucata	(インフカータ)
			H. sp.	アオウミウシ属の一種
			Risbecia tryoni	(トリュオニ)
	ツヅレウミウシ科		*Sebadoris sp.*	ツヅレウミウシ属の一種
	CENTRODORIDIDAE		*Jorunna funebris*	(フネブリス)
	ヒオドシウミウシ科		*Halgerda carlsoni*	(ハルゲルダ・カールソニ)
			H. guahan	(グアハン)
			H. tesselata	(テッセラータ)
		●	*H. willeyi*	(ウィレイイ)
	イボウミウシ科		*Fryeria guamensis*	グアムイボウミウシ
		●	*F. menindie*	タマゴイロイボウミウシ
		●	*Phyllidia coelestis*	ソライロイボウミウシ
		●	*P. elegans*	(フィリディア・エレガンス)
			P. exquisita	(エクスキシータ)
			P. ocellata	キイロイボウミウシ
		●	*P. varicosa*	タテヒダイボウミウシ
			P. willani	(フィリディア・ウィラニ)
		●	*Phyllidiella granulatus*	ハイイロイボウミウシ
		●	*P. pustulosa*	コイボウミウシ
		●	*Phyllidiopsis fissuratus*	ツブツブコイボウミウシ
			P. pipeki	(ピペキ)
			P. striata	シロウネイボウミウシ
		●	*Reticulidia fungia*	(フンギア)
	ホクヨウウミウシ科		*Tritoniopsis elegans*	ユビノウハナガサウミウシ
	ユビウミウシ科		*Bornella anguilla*	(アングイラ)
	サキシマミノウミウシ科		*Flabellina exoptata*	(エクソプタータ)
			F. sp.	
			F. sp.	
	トモエミノウミウシ科	●	*Pteraeolidia ianthina*	ムカデミノウミウシ
	クセニアミノウミウシ科		*Phyllodesmium kabiranum*	(カビラナム)
			P. longicirra	オオコノハミノウミウシ
科不明				ドーリス目の一種

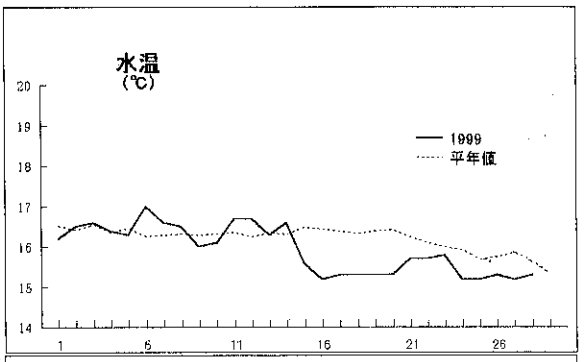
錆浦の海から

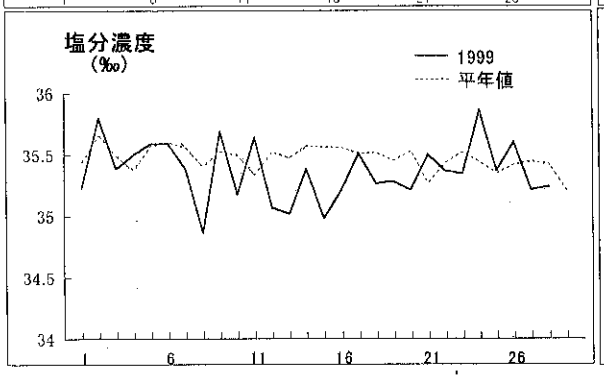
宇井　晋介

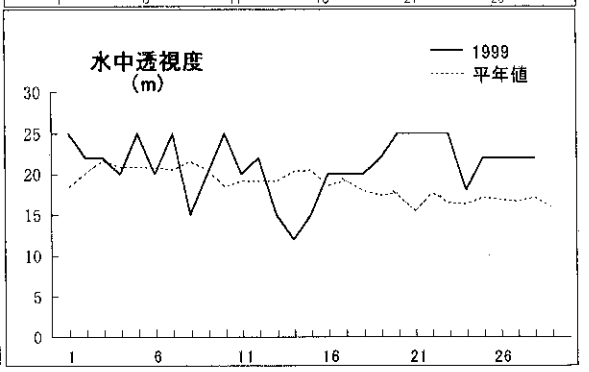
2月	気温　6.8℃	水温　15.9℃	塩分 35.4‰
平均値	透視度 12.0 m	月間降水量　54.3 mm	

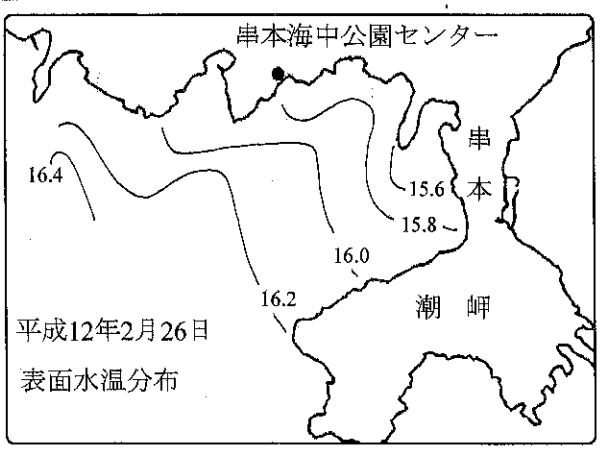
「オオナ」またの名を「タイシウオ」という魚がある。和名でオオクチイシナギ通称イシナギと呼ばれる大型の根魚だ。大きなものでは2m、200キロを超えると言うから、日本近海の根魚では最大クラスに属する。このイシナギは春から初夏にかけ深海から浅場に産卵にやってくるので、この時期を狙って漁師は釣りに出る。地方名オオナの由来はこの時期にとれるタカナ（オオナ）と炊き合わせるとおいしいからだそうだが、タイシウオの名は、昔この地を旅の僧として訪れた弘法大師が、厚遇のお礼としてオオナの釣れる場所を村人に教えたとの故事により、それを記念した碑が今も海を見下ろす台地の上に立つ。かつてはたくさんとれ、80キロ前後の大物もよくあがったそうだが、今ではすっかり幻の魚となった。菜の花が咲くとオオナの時期到来と漁師は盛期のカツオ漁を休んで、漁に出たと聞く。柿の渋で強化した縒り糸を使い腕一本でこの巨魚と渡り合ったというが、今はその経験者も数えるほどになってしまった。











マリンパビリオン Vol.29, No.3 通巻339号
一部50円（年間購読料1,500円送料含む）
印刷日　平成12月3月20日
発行日　平成12年3月25日
郵便振替口座番号：00990-9-41351
口座名称：串本海中公園マリンパビリオン
編集兼発行人
〒649-3514 和歌山県西牟婁郡串本町有田1157
（株）串本海中公園センター
電話　0735-62-4875　FAX　62-7170
印刷所 坂本印刷
串本町串本2481　Tel：0735（62）0895